



古江小 HP QR コード



令和8年1月20日

松江市立古江小学校学校だより（文責 校長：青山 巧）

今年もよろしくお願ひいたします！

1月6日10時18分、突然の縦揺れから横揺れが10秒ほど続き、震度5強という大きな地震が島根県東部や鳥取県西部を襲いました。びっくりされたのではないでしょか。幸いにも学校は被害がなく、登校路の安全も確認できましたので予定通り8日に始業式を行うことができました。昨年のお正月は穏やかな天気に恵まれ、雪を抱いた大山が、青空の下、雄大な姿を見せていましたが、今年は2～3日にかけて積雪もあり、冬らしい天気でのスタートでした。

本校では1月8日に予定通り3学期の始業式を迎え、校内にこどもたちの元気な声が戻ってきました。2学期末には猛威をふるっているインフルエンザも収束してきていますが、県内ではコロナウイルス感染症が広がりつつある状況ですので、今一度各家庭でも、手洗い、うがい、換気、体調と気候に適した服装への声掛けをお願いいたします。

始業式には、例年干支にちなんだ話をするのですが、今年は地震についての話をしました。詳細は別記しています。2日登校して3連休、その次の週から本格的に学校が動き始めています。3学期は学年締めくくりと、次の学年への準備の学期です。6年部の教員には中学1年0学期のつもりで意識をするようにと伝えています。50日ほどと短い期間ですが、濃密な学期ですのでこどもたちが大きく飛躍することを期待しています。本年もどうぞよろしくお願ひします。

福井県永平寺町教育委員会視察受入

島根県教育庁社会教育課の依頼を受け、16日に福井県永平寺町教育委員会指導主事の視察を受け入れました。聞き取り内容はふるさと教育の実践についてです。

古江小学校で実践していることは、特別なことではないという意識で説明をしたのですが、「素晴らしいですね。これを自分のところでやろうと思ったらどれくらいかかるかわかりません。『ひと、もの、こと』と言われていますが、何よりも『ひと』が大事なことがよくわかりました。」と感心していただきました。

私は、ふるさと教育とは、学校と家庭・地域をつなぎ、つながり、こどもに、体験活動や学校教育外活動の場をつくり、ふるさとに対して埋火（うずみび）をもち、それがどこかのタイミングで大きな火=活動へのエネルギーになって、ふるさとで貢献できる人になることと考えています。古江小では、公民館をはじめ、多くの地域の方に活動の場を提供していただきたり、支援していただきたりすることで、こどもたちが様々な経験をさせてもらい、視野を広げ、視点を増やすことができています。これが当たり前でないと気付くのは、古江から一度距離を置かないといけないかもしれません。その時にふるさと古江、ふるさと松江、ふるさと島根のために何かをしたいと行動できる人に成長してくれていることを願っています。

本年度より島根県教育委員会が取り組み、松江市教育委員会では3年生を対象に行った「たつじんテスト」について、本校の結果の活用について、3年生保護者にはtetoruで配信をし、加えてホームページにもあげています。是非ご覧になってください。

3学期始業式の話

1月6日地震発生時の状況についてこどもたちに尋ねました。大人が誰もいなくてとても不安だったこと、初めての大きな揺れでびっくりしたこと、避難訓練と同じように頭を守り、揺れが収まってから外に出ることができたこと、怖くて動けなかつたことなど、それぞれ感じ方や行動は異なっていました。

その後、私が車に積んでいる非常時用コンテナなどを見せ、家に入ることができなくなることを想定して準備したことを話しました。

実は自分の行動は完璧と思って6日の昼頃に教職員と話をしていたのですが、その後に4年生と2年生とその保護者に公民館でお会いした時に、お風呂などに水を貯めたと聞いて、まだまだ不十分だったことを痛感しました。そのご家族は、災害伝言板の使い方や公衆電話の設置場所の把握のために行動されていて、危機管理対応の素晴らしさに感激しました。

自分の命を守るための適切な行動ができるよう学校でも積み重ねていきます。

新年度に向けた準備

2学期末に保護者の皆様にはtotoruを配信して以下の2点について今学期より取り組むことをお伝えさせていただきました。

1 給食時の服装

エプロン、三角巾等、各自で準備する。

2 標準時数に近づけるように授業時数をカットする。

本校は学習指導要領で規定されている授業時間よりも多く授業を行っているため。

いずれもこどもたちの不利益にならない改善策として捉えています。これらを試行した上で、特に大きな問題がなければ次年度以降は4月から同様に取り組んでいく予定です。

授業カットの日については、年間行事予定を配付する際に、予めお示しできるように努めます。

2学期終業式のメディア取材

12月25日の終業式にはNHK松江放送局と山陰中央新報社の2社から取材を受けました。

NHKでは、夕方、夜、翌日朝と3度も放映され反響も多くありました。(昨年度までいらっしゃった田中先生から森山先生に温かいメッセージもあったようです。) 2年2組の児童の元気な様子とインタビューを受けた子どもの「(冬休みは) ゴロゴロしたいです。」というコメントには多少ハラハラしましたが・・・。

翌日に掲載された山陰中央新報の記事においては、5年生の様子が大きな写真で掲載されました。

それぞれの記者の方は1時間以上も取材をしてくださいり、帰り際には「とっても元気なお子さんたちですね。」と笑顔で伝えてくださいました。

余談ですが、正月に高校の同窓会があり、その時に何人の人に「テレビ見たよ。」と声をかけられました。「今時黒のマスクはないだろ。」「いつもと全然違う話し方だった。」「あんなゆっくりで大きい声で話すの?」とふだんとは違うイメージで、どちらかというといじられていたような気がします。

高校の同窓会の続きです。古江小出身の同級生から『ふるえがお』読んだよ。』と声をかけられました。県外在住で大晦日に帰省した時に、公民館だよりで私が古江小の校長であることを知り、それをご家族の方に話すと、「ふるえがお」を見てくださったそうです。

彼とは1年と3年の時に同じクラスで、私と違って穏やかで、優しくて、いつも笑顔で誰からも好かれる性格の持ち主でした。そんな彼に「読んでいるよ。」と声をかけてもらったことは、気恥ずかしさもありましたが、嬉しくもありました。「ノートを借りにぼくの家の近くまで来たこともあったよね。」と言われましたが、私にそんなまじめな姿があったという記憶はありません。